

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「とことん」「No Limit 福泉」のスローガンの下、
つながりや体験的な学びを重視し、素敵な社会人を育成し、地域に貢献できる学校をめざす。

- 1) 「夢の実現に向けてチャレンジし、努力を惜しまない生徒」を育成する。
- 2) 「学校、社会のルールを守り、集団生活のなかで他人に感謝・協力することができる生徒」を育成する。
- 3) 「自分の能力や興味を見つけ出し、学校生活に懸命に取り組む生徒」を育成する。

2 中期的目標

1 「学び続ける力」の育成

- (1) 「分かる・できる授業」による「基礎力」の定着をめざす。
 - ・少人数・習熟度別授業、モジュール的ミニ教材、ICT等の活用と継続的な授業研究による系統的・効果的な教科指導の確立をめざす。
 - (2) 「受動的な学び」と「能動的な学び」との併用による学習意欲の向上、学習内容の深化をめざす。
 - ・これまで実践してきた授業の内容や方法を再点検しながら、「オープンクラス」による授業見学及び研究協議を進め、カリキュラム全体の改善・充実を図る。
- ※3年後の指標（H29/H30/R1年度実績）
- ・授業アンケート「興味・関心がもてた」、「知識・技能が身に付いた」3.3以上(3.09/3.03/3.15)
 - ・学校教育自己診断（生徒回答）「授業はわかりやすく工夫されている」：80%以上肯定（73%/78%/79%）

2 「未来を切り拓く力」の育成

- (1) 教科・総合的な学習の時間・特別活動等を活用したキャリア教育の更なる充実を図る。
 - ・大学や企業・外部講師等を活用した体験的な学習（インターンシップ、体験型進路説明会等）を継続・発展させ、社会への視野を広げ、生徒の進路意識の向上をめざす。
 - ・入学から卒業、さらに将来を見通したキャリア教育をつくりあげる。
 - (2) 各種検定、就職指導、進学講習等、生徒の資質・能力を伸ばし、進路実現に向けた取組みをさらに進める。
- ※3年後の指標（H29/H30/R1年度実績）
- ・年度末進路決定率100%（98%/95%/94%）、学校幹旋就職[一次合格率85%以上を維持（75%/81%/87%）]
 - ・進学者数における四大進学者の割合30%（29%/22%/25%）
 - ・学校教育自己診断（生徒回答）：「将来の進路や生き方などについて、学んだり考えたりする機会がよくある」85%以上（74%/80%/81%）

3 「他者と協働できる力」の育成

- (1) 将来の社会人・職業人を見据え、規範意識の醸成と自律的行動力の育成を図る。
 - ・「励まし育てる」精神を大切にしつつ、あいさつ、マナー、遅刻、身だしなみ等、日々生徒に寄り添いながら向き合う指導を大切にする。
 - ・家庭との連携協力体制をつくり上げるため、丁寧できめ細かな情報の共有を進める。
- (2) 家庭・地域等と連携して安全で安心な学校づくりを進め、生徒の自己理解を深め、自尊感情・自己有用感の向上を図る。
 - ・教育相談および生徒支援体制を強化し、いじめ、ネットトラブル、不登校、体罰・セクハラ等の早期発見と適切な対応につなげる。
 - ・SC、SSWや関係機関との連携を深め、教職員の専門的な知識の習得と対応力の向上を図る。
 - ・PTAや地域との交流活動（防災教育・ホテル鑑賞会・農業体験等）やきめ細かな情報提供を通じて、開かれた学校づくりを進める。
- (3) 生徒会活動・部活動などを通じて、社会とかがわる実践的な行動力の伸長を図る。
 - ・学校行事、学年行事、ボランティアを通じて地域との交流活動等の充実に努める。
 - ・国際交流を推進し、今日のグローバル社会に主体的に関わろうとする意志と行動力の醸成を図る。
- (4) 清掃・美化活動の実践を通じて、校内における環境美化を推進する。（例）清掃に関わるコンクールの実施、清掃週間。

※3年後の指標（H29/H30/R1年度実績）

- ・遅刻総数10,000件以下（H29：14,152件、H30：10,075件、R1：11,002件）、部活動加入者定着率75%以上（73%）
- ・学校教育自己診断（生徒回答）「学校の決まりやルールは適切である」85%以上を維持（87%/88%/88%）
- 「先生や学校は、いじめに、しっかり対応してくれる」90%以上（80%/83%/83%）
- 「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」90%以上（78%/72%/72%）
- 「部活動や生徒会活動は活発だ」70%以上（60%/67%/67%）「校内はきれいな状態である」70%以上（59%/62%/63%）

4 「信頼される学校」・「協働する学校組織」をつくりあげる

- (1) 校内外の研修、OJTに加えて、中学校や他の高校、関係機関等との連携・情報提供を計画的に進めて、教職員力の向上を図るとともに、本校教育への信頼につなげる。また、ホームページを充実させるなど外部への情報発信に努める。
- (2) ミドル層を核とした、メンター制による教職員の育成支援や業務の協働を促進する。
- (3) 校務運営を継承発展させる教員の育成を図る。
 - ・OJTによる校内情報ネットワークの活用、生徒支援、分掌業務の効率化を推進すると同時に、中核となる教員の育成を図る。

※3年後の指標（H29/H30/R1年度実績）

- ・入学者選抜の志願倍率1.0倍以上を維持（R2年度選抜実績0.98倍/R11.02/H300.89）
- ・学校自己診断「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」70%以上（65%/59%/59%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施]	学校運営協議会からの意見
<p>R2 学校教育自己診断の回答より ※年度 (%) … (生徒回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業はわかりやすく工夫されている。 H29(73) H30(78) H31(79) R2(77) 生徒(77) 保護者(63) 教員(90)…(R2 三者比較) ※「オープンクラス」による教員間での授業見学や研究協議の機会が増加し、授業内容のレベルアップにつながっている。継続していく。 ・将来の進路や生き方について、学んだり考えたりする機会がある。 H29(74) H30(78) H31(81) R2(84) (R2 三者比較)生徒(84) 保護者(85) 教員(86) ※1年生からのきめ細やかな進路指導が実現しつつある。 ・学校の決まりやルールを守っている。 H29(87) H30(92) H31(88) R2(92) (R2 三者比較)生徒(91) 保護者(84) 教員(18) ※生徒一人ひとりの自覚もあるが、教員はルールを守らせる立場にあり、ぶれのない指導体制の積み上げが課題である。 ・先生や学校は、いじめにしっかり対応してくれる。 H29(80) H30(84) H31(83) R2(82) (R2 三者比較)生徒(82) 保護者(72) 教員(96) ※いじめ対策チームによる啓発からいじめに対する教員間での共通理解が深まり、どの学年でも即時対応できるようになった。 ・悩みや相談に応じてくれる先生がいる。 H29(78) H30(83) H31(72) R2(71) (R2 三者比較)生徒(71) 保護者(80) 教員(94) ※生徒からの相談にはていねいに対応できている。気づきと情報共有、教員から生徒へのさらなる声掛けが課題である。 ・クラブ活動や生徒会活動は活発だ。 H29(60) H30(66) H31(67) R2(69) (R2 三者比較)生徒(69) 保護者(51) 教員(12) ※クラブ活動への加入人数は少ないが、加入者自身の満足度は高い。加入人数の関係で三者比較に大きな差が出ている。生徒にとって、魅力とやりがいのある部活動づくりを支援していきたい。 ・校内はきれいな状態である。 H29(59) H30(65) H31(63) R2(60) (R2 三者比較)生徒(60) 保護者(61) 教員(42) ※清掃指導が学年やクラスによって差異が生じている。教職員・生徒一体となった体制づくりが課題である。 ・校内研修は教育実践に役立つような内容となっている。 H29(65) H30(72) H31(59) R2(76)…(教員回答) ※研修内容を精査し、必要とするテーマについて継続的に研修しながら、より教職員のためになる研修を実施する。 	<p>第1回 令和2年7月31日(金) 14:00 場所:本校会議室</p> <p>1 学校長挨拶 2 委員長挨拶 3 委員自己紹介 4 意見書⇒なし 5 学校経営計画(説明)[校長] 6 今年度の取組み[各分掌・事務室] 7 その他(意見等)</p> <p>委員:コロナ感染症に関する認識は、先生方の中でも見解の相違がある。統一したマニュアル等が必要。</p> <p>委員:今般のことで、中学校でも、授業日数の確保のため工夫を必要とした。</p> <p>委員:部活動加入はどうか。A 休校だったこともあり、1年生の加入率は伸びていない。</p> <p>○ その他</p> <p>委員:18歳が選挙権を持つ時代。しかしながら、政治が若い世代に向き合っておらず、若い人たちが理解しにくい言葉でしか語られていない。高校生のための「演説会」を企画実現することはできないか。</p> <p>第2回 令和2年10月31日(土) 11:00 場所:本校校長室</p> <p>※1年生文化祭企画「クラスTシャツコンクール」審査</p> <p>1 学校長挨拶 2 委員長挨拶 3 学校経営計画進捗状況(説明)[校長] 4 意見書⇒なし 5 今年度の取組み[各分掌・事務室] 6 その他 7 文化祭見学(意見等)</p> <p>委員:昨今、高校生にも薬物の危険性が浸透してきているという話を聞く。高校でも薬物乱用防止の呼びかけや対策をお願いしたい。A 各HRでの学びや講師を招いた講演等を実施している。</p> <p>委員:Q 先生方の研修はどうか。A 教育センターの研修はWEB形式及び対面型で実施。</p> <p>委員:Q 生徒のマスク着用は? A 感染防止のためマスク着用呼びかけ、配付もしている。</p> <p>委員:コロナ禍における、先生方の頑張りに敬意を払いたい。応援しています。</p> <p>第3回 令和3年2月25日(木) 14:00 場所:本校校長室</p> <p>1 学校長挨拶 2 委員長挨拶 3 委員自己紹介 4 意見書⇒なし 5 学校経営計画(説明)[校長] 6 今年度の取組み[各分掌・事務室] 7 その他(意見等)</p> <p>委員:コロナ禍において、先生方の苦労は計り知れないものがある。感謝・支援したい。</p> <p>委員:生徒が入学したいと思う魅力的なコースの設定をお願いしたい。より具体的に学びを意識することのできるネーミングとすることも重要と考える。</p> <p>委員:学校経営計画の記載内容について、内向きの目標が少し多い気がする。学校外に向けた目標の設定および発信をしてみてもどうか。</p> <p>委員:生徒の倫理観が希薄になっている気がする。周辺の見回りについてもお願いしたい。</p> <p>委員:遅刻や生活指導として「〇〇強化DAY」等を設定してみてもどうか。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学び続ける力の育成	(1) 「基礎力」の定着 (2) 学習意欲の向上、学習内容の深化	(1) スモールステップや学びのユニバーサルデザインを意識して、ICT機器、資料の活用など、「わかる授業」を工夫する。 (2) オープンクラスを核に授業見学を企画・実施しICTの活用や授業方法等、授業研究を進める。	(1) (2) ・授業アンケートの「興味・関心をもてた」、「知識・技能が身に付いた」とともに3.3以上(R1:3.15) ・自己診断「授業はわかりやすく工夫されている」80%以上(R1:79%)	(1) (2) ・「授業アンケート」3.22↑(△) 昨年度、数値は上昇している。生徒にとって、さらに良い授業となるよう、オープンクラス活用や授業見学の活性化及び助言をすすめていく。 ・「学校教育自己診断」77%(△) ICT機器を活用する等、わかりやすい授業の実施に努めている。コロナ禍におけるWEB授業教材作成に際しても、教科ごとに「わかりやすさ」「伝え方の工夫」を重視することができた。
2 未来を切り拓く力の育成	(1) キャリア教育の更なる充実 (2) 生徒の能力の発展や進路実現に向けた取組み	(1) 企業・大学等外部機関との連携を進め、体験的な学習を核に、進路意識の向上を図る。 (2) ア. 考査や休業期間等の更なる活用等工夫して、就職指導・進学講習・キャリア支援行事等の取組みを進める。 イ. 教育相談委員会等と連携を密にし、進路に不安を感じる生徒の個別指導を行う。	(1) 自己診断(生徒)「進路や生き方などの学習機会」生徒肯定的回答3%up(R1:81%) (2) 進路決定率100%(94%) 学校幹旋一次合格率85%以上(R1:87%) 進学者における四大進学者の割合30%(R1:27%)	(1) ・「学校教育自己診断」84%(○) 探求学習の時間やLHRを始め、コロナ感染予防対策をとりながら、体験型の進路学習機会を確保した。 (2) ・「進路決定率」95.3%(○) ・「学校幹旋一次合格率」65.7%(△) ・「進学者における四大進学者の割合」17.8%(△) 就職については、(昨年度)求人数微減、また求人の少ない職種があるなど厳しい状況。第1次就職選考を76名が受験、内定50名。最終的には、全員が学校推薦による就職を決めている。今年度の分析・検証を行い次年度にいかしていく。 進学については、大学・短期大学への入学希望者は減少。入試形態の変化が影響したと思われる。一方で大学総合型選抜を受験する生徒もいた。 一般的に生徒・教員の頑張りにより、厳しい状況下において、一定の成果を出すことができています。
3 他者と協働できる力の育成	(1) 規範意識の醸成と自律的行動力の育成 (2) 生徒の自己理解を深め、自尊感情・自己有用感の向上 (3) 社会とかかわる実践的な行動力の伸長 (4) 校内環境美化の推進	(1) ア. 生徒一人ひとりに寄り添いながら、あいさつ、マナー、遅刻・服装・頭髪等、家庭と連携を密にした理解と協力の下、粘り強い指導を継続して行う。 (2) ア. 教育相談委員会等を核に、保健部・生活指導部・教務部が協力体制を強化してSC・SSW等との連携を進め、中退やいじめ等の防止、丁寧な対応に組織的に取り組む。同時に、合理的配慮や個別の教育支援計画等をまとめた「教育相談の手引き」の活用と内容の更新・改定を行う。 イ. 教員が一丸となって部活動や学校行事等の魅力作りに関わる。Webページを充実させ、生徒の頑張っている姿を発信する。 (3) ア. 学校行事、学年行事、ボランティアを通じて地域との交流活動を実施する。 イ. 国際交流活動(長期休業中の短期留学、ホームステイ)の呼びかけと実施する。 (4) 「校内ピカピカ計画」校内清掃週間の設定、校内美化のコンクール・表彰を実施する。	(1) ア. 遅刻総数10,000件以内に(R1:11,002件)及び生活指導事案への即応 (2) ア. 自己診断(生徒)の「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」(R1:72%)、「いじめに、しっかり対応してくれる」(R1:83%) 共に90%以上 イ. 部活動加入者の定着率75%以上(R1:73%) ・HP閲覧数3万件(R1:29,623件) (3) ア. ボランティア体験、地域との交流活動への参加 イ. 国際交流活動の複数回実施。 (4) 自己診断(生徒)「校内はきれいな状態である」70%以上(R1:63%)	(1) 遅刻総数13,038件(△) コロナ禍による休業・分散登校があり昨年までの数値との比較は難しいが、数値は増加した。今後も、方策を考えながら、粘り強く指導を継続する必要がある。生活指導事案には概ね対応することができた。 (2) ア 「学校教育自己診断」71%(△)82%(△) SC・SSWによる定期的な面談を実施し、生徒の心のケアにつなげている。合理的配慮や個別に教育支援を必要とする生徒について、今後も引き続き、きめ細やかに対応していく。 イ 「部活動定着率」79.4%(○) 一定の定着率を維持することができている。部員を集め、練習試合や大会に参加する部活動や近畿大会に進出する部活動もあり、今後の活躍が楽しみなところ。部活動加入率のアップが課題。 ・HP閲覧数752,046(○) 「福泉だより」による情報発信も昨年度より増加。190(昨年度132)。 (3) ア コロナ禍において、インターンシップや地域との交流を実施することはできなかった。(一) イ フランスからの短期留学生を受け入れた。生徒にとっても良い経験となった。来年度はグアム修学旅行を再開する予定。長期休業期間を活用した短期留学交流も検討していく。(△) (4) ・「学校教育自己診断」60%(△) 文化祭後のエコ大賞や呼びかけを実施。校内は比較的きれいな状態が保たれている。日常的に継続した取組みと定着、生徒への呼びかけが今後の課題。

府立福泉高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 信頼される学校、 進化する学校組織の 構築</p>	<p>(1) 教職員力と本校の信頼度アップ</p>	<p>(1) ア. 授業研究・生徒対応研修等の定期的開催 イ. 保護者・関係団体・地域等への情報提供・収集の迅速化および連携の強化 ウ. 個人情報の管理等、コンプライアンス意識の向上・業務等の再確認 エ. 連絡票を活用した職員朝礼の実施</p>	<p>(1) ア. 各学期1回以上開催 アイ. 中学校・高等学校等と連携した研修の複数回開催 ウ. 定期的なマニュアル等の確認や研修実施 エ. 連絡票の活用（毎日）</p>	<p>(1) ア 「授業公開及び研究協議」学期毎1回以上。初任者を始め複数教員による研究授業を実施した。(○) アイ 実施できず。次年度以降、状況をみながらより効果的なものとなるようにしたい。(－) ウ 個人情報等の紛失が起こらないよう教職員へ注意喚起を促すとともに「個人情報の管理・点検業務」について、定期考査マニュアルの確認・改定を行った。(○) エ 職員朝礼において、連絡票を活用した情報伝達については定着しつつある。(○)</p>
	<p>(2) 教職員の育成支援や業務の協働を促進</p>	<p>(2) 若手教員の育成支援や学校運営への積極的な参画を図る。</p>	<p>(2) ・各学期1回以上開催 ・複数分掌による他校視察3校以上</p>	<p>(2) ・日常的に声掛け等OJTを実施。また、教育センター等の研修に参加しながら資質の向上に努めた。今後、校内における組織的な継続した育成支援の取組みが必要。 ・コロナ禍において調整がつかず、他校訪問は実施できなかった。(－)</p>
	<p>(3) 校務運営を継承発展させる教員の育成</p>	<p>(3) ア. 業務内容の改善や新たな体制づくり、資料の整備等「働き方改革」を進める。 イ. 新規の企画を検討する「β会議」を開催し、(進路) (広報) 等、分掌・学年の枠をこえた取組みを実施する。</p>	<p>(3) アイ. β会議年6回以上開催 「β会議」において、「学校パンフレットやオープンスクール学校説明会等の広報」について協議するとともに「福泉ロードマップ」を作成する。</p>	<p>(3) アイ 分掌・教員で協議対応した。 ・「学校パンフレット」データ版を作成。HPにアップした。次年度は紙ベースで制作・配付。(○) ・「オープンスクール」については、11月・1月・2月の3回実施。学校説明に際して、説明のための映像資料や動画を更新することができた。(○) ・「マップ」については、次年度継続。(△)</p>